

＜福島第一原子力発電所プラント状況等のお知らせ＞  
(2月2日 午後4時現在)

平成24年2月2日  
東京電力株式会社  
福島第一原子力発電所

福島第一原子力発電所は全号機（1～6号機）停止しています。

1号機（停止中）

- 平成23年3月12日午後3時36分頃、直下型の大きな揺れが発生し、1号機付近で大きな音があり白煙が発生しました。水素爆発を起こした可能性が考えられます。
- 平成23年3月25日午後3時37分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っています。

平成23年12月10日午前10時11分、給水系配管からの注水に加え、炉心スプレイ系注水配管から原子炉への注水を開始しました。

原子炉注水の信頼性向上をはかるため、高台炉注水ポンプの注水ラインのうち、給水系配管に接続するラインのポリエチレン管への引き替えが完了したことから、平成24年2月2日午前10時35分、給水系からの注水について、タービン建屋内炉注水ポンプから高台炉注水ポンプへ切替を実施しました。その後、同日午後3時15分、原子炉への注水量の変動が確認されたため、給水系配管からの注水量を約4.2m<sup>3</sup>/時から約4.5m<sup>3</sup>/時、炉心スプレイ系注水配管からの注水量を約1.5m<sup>3</sup>/時から約2m<sup>3</sup>/時に調整しました。

現在の注水量は給水系配管から約4.5m<sup>3</sup>/時、炉心スプレイ系注水配管から約2.0m<sup>3</sup>/時です。

- 平成23年4月7日午前1時31分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
- 平成23年8月10日午前11時22分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- 平成23年10月28日、放射性物質の飛散を抑制する原子炉建屋カバーの設置工事が完了しました。
- 平成23年11月30日午後4時4分、原子炉圧力容器へ窒素封入操作を開始しました。
- 平成23年12月19日午後6時、原子炉格納容器ガス管理システムの本格運用を開始しました。

2号機（停止中）

- 平成23年3月15日午前6時頃に圧力抑制室付近で異音が発生、同室の圧力が低下しました。
- 平成23年3月26日午前10時10分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っています。
- 平成23年9月14日午後2時59分、給水系配管からの注水に加え、炉心スプレイ系注水配管から原子炉への注水を開始しました。

原子炉注水の信頼性向上に伴う高台炉注水ポンプの注水ラインについてポリエチレン管への引替が完了したことから、段階的に原子炉への注水量について変更しており、平成24年2月2日午前10時55分、給水系配管からの注水量を約3.9m<sup>3</sup>/時から約3m<sup>3</sup>/時、炉心スプレイ系注水配管からの注水量を約5.1m<sup>3</sup>/時から約6m<sup>3</sup>/時に調整しました。

その後、同日午後3時15分、原子炉への注水量の変動が確認されたため、給水系配管からの注水量を約2.5m<sup>3</sup>/時から約3m<sup>3</sup>/時、炉心スプレイ系注水配管からの注水量を約5.2m<sup>3</sup>/時から約5.5m<sup>3</sup>/時に調整しました。

現在の注水量は給水系配管から約3m<sup>3</sup>/時、炉心スプレイ系注水配管から約5.5m<sup>3</sup>/時です。

- 平成23年5月31日午後5時21分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- 平成23年6月28日午後8時6分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。

- 平成 23 年 10 月 28 日午後 6 時、原子炉格納容器ガス管理システムの本格運用を開始しました。平成 24 年 2 月 1 日、原子炉格納容器ガス管理システムの気体のサンプリングを実施しました。分析の結果、当該システム入口でキセノン 135 が検出限界値 ( $9.5 \times 10^{-2} \text{Bq/cm}^3$ ) 未満であり、再臨界判定基準である  $1 \text{Bq/cm}^3$  を下回っていることを確認しました。
- 平成 23 年 12 月 1 日午前 10 時 46 分、原子炉圧力容器へ窒素封入操作を開始しました。
- 平成 24 年 1 月 19 日午前 11 時 50 分、使用済燃料プール塩分除去装置の運転を開始しました。

### 3号機 (停止中)

- 平成 23 年 3 月 14 日午前 11 時 1 分頃、1 号機同様大きな音とともに白煙が発生したことから、水素爆発を起こした可能性が考えられます。
- 平成 23 年 3 月 25 日午後 6 時 2 分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っています。  
平成 23 年 9 月 1 日午後 2 時 58 分、給水系配管からの注水に加え、炉心スプレイ系注水配管から原子炉への注水を開始しました。  
原子炉注水の信頼性向上に伴う高台炉注水ポンプの注水ラインについてポリエチレン管への引替が完了したことから、段階的に原子炉への注水量について変更しており、平成 24 年 2 月 2 日午前 11 時 10 分、給水系配管からの注水量を約  $3.8 \text{m}^3/\text{時}$  から約  $3 \text{m}^3/\text{時}$ 、炉心スプレイ系注水配管からの注水量を約  $5.2 \text{m}^3/\text{時}$  から約  $6 \text{m}^3/\text{時}$  に調整しました。  
その後、同日午後 3 時 15 分、原子炉への注水量の変動が確認されたため、給水系配管からの注水量を約  $2.5 \text{m}^3/\text{時}$  から約  $3 \text{m}^3/\text{時}$ 、炉心スプレイ系注水配管からの注水量を約  $5.2 \text{m}^3/\text{時}$  から約  $5.5 \text{m}^3/\text{時}$  に調整しました。  
現在の注水量は給水系配管から約  $3 \text{m}^3/\text{時}$ 、炉心スプレイ系注水配管から約  $5.5 \text{m}^3/\text{時}$  です。
- 平成 23 年 6 月 30 日午後 7 時 47 分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- 平成 23 年 7 月 14 日午後 8 時 1 分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
- 平成 23 年 11 月 30 日午後 4 時 26 分、原子炉圧力容器へ窒素封入操作を開始しました。
- 平成 24 年 1 月 14 日午後 3 時 18 分、使用済燃料プール放射性物質除去装置の運転を開始しました。

### 4号機 (定期検査で停止中)

- 平成 23 年 3 月 15 日午前 6 時頃、大きな音が発生し、原子炉建屋 5 階屋根付近に損傷を確認しました。
- 平成 23 年 7 月 31 日午後 0 時 44 分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- 平成 23 年 11 月 29 日午前 10 時 58 分、4 号機の使用済燃料プールにおいて塩分濃度を低減するためイオン交換装置の運転を開始しました。
- 平成 24 年 1 月 31 日午後 10 時 30 分頃、4 号機原子炉建屋 1 階にあるジェットポンプ計装ラック内の計器テストラインから漏れいしていることを発見しました。同日午後 10 時 43 分、計装ラックに繋がる元弁を閉めたことにより、水の漏れいは停止しました。床面は瓦礫が散乱した状態であり、漏れた水の量は確認できた範囲で約 6 リットルです。なお、原子炉建屋外への流出はありません。テストライン内の水を採取し、放射能濃度を測定した結果、漏れた水は原子炉ウェル水と推定しました。(分析結果： $35.5 \text{Bq/cm}^3$ )  
その後、スキマサージタンク水位の低下量から、漏れた水の量は 8,500 リットルと推定しました。
- 平成 24 年 2 月 2 日午後 3 時 20 分頃、4 号機原子炉建屋のパトロールを実施していた当社社員が、原子炉建屋 1 階北西コーナーにて、鉛筆芯 1 本程度の水が流れ出ていることを確認しました。漏れいは原子炉ウェル補給水ラインからと思われ、当該系統の原子炉ウェルへの弁は全閉になっており、原子炉ウェル内からの水の漏れいではないと思われませんが、現在、詳細につい

て調査中です。なお、原子炉建屋外への流出はありません。

- ・現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないものと考えています。

#### 5号機（定期検査で停止中）

- ・安全上の問題がない原子炉水位を確保しています。
- ・平成23年3月19日午前5時、残留熱除去系ポンプを起動し、使用済燃料プールの冷却を開始しました。
- ・平成23年7月15日午後2時45分、本設の残留熱除去海水系（B系）ポンプによる残留熱除去系（B系）の運転を開始しました。
- ・補機冷却海水系ポンプ（B）の復旧作業が完了したため、平成23年12月22日午前10時11分、試運転を開始し、同日午前11時25分、異常がないことを確認したため、本格運用を開始しました。
- ・現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないものと考えています。

#### 6号機（定期検査で停止中）

- ・安全上の問題がない原子炉水位を確保しています。
- ・平成23年3月19日午後10時14分、残留熱除去系ポンプを起動し、使用済燃料プールの冷却を開始しました。
- ・平成23年9月15日午後2時33分、原子炉は残留熱除去系、使用済燃料プールは補機冷却系および燃料プール冷却系、各々のシステムによる冷却を開始しました。
- ・現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないものと考えています。

#### その他

- ・平成23年6月13日午前10時頃、2、3号機スクリーンエリアに設置した循環型海水浄化装置の運転を開始しました。
- ・平成23年6月17日午後8時、水処理設備において滞留水の処理を開始しました。また、7月2日午後6時、水処理設備による処理水を、バッファタンクを經由して原子炉へ注水する循環注水冷却を開始しました。
- ・平成23年8月19日午後7時41分、セシウム吸着装置から除染装置へのラインと第二セシウム吸着装置の処理ラインの並列運転による滞留水の処理を開始しました。
- ・平成23年10月7日午後2時6分、伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止を目的とした構内散水を、5、6号機滞留水浄化後の水を利用し、開始しました。
- ・地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、平成23年10月28日、1～4号機の既設護岸の前面に海側遮水壁の設置に関する工事に着手しました。
- ・平成23年12月13日午後0時25分、淡水化装置（逆浸透膜式）において、淡水化装置（逆浸透膜式）処理後の濃縮水発生量の抑制を目的とした、再循環運転による運用を開始しました。
- ・集中廃棄物処理施設のプロセス主建屋と雑固体廃棄物減容処理建屋〔高温焼却炉建屋〕間のトレンチにおける放射性物質を含む溜まり水の発見（平成23年12月18日）を受け、平成24年1月11日、発電所構内のその他のトレンチ等の点検を開始しました。
- ・平成24年1月30日午後4時5分、2号機タービン建屋地下から集中廃棄物処理施設（雑固体廃棄物減容処理建屋〔高温焼却炉建屋〕）へ新たに設置したポリエチレン管による溜まり水の移送を開始しました。
- ・平成24年1月30日午後4時12分、3号機タービン建屋地下から集中廃棄物処理施設（雑固体廃棄物減容処理建屋〔高温焼却炉建屋〕）へ新たに設置したポリエチレン管による溜まり水の移送を開始しました。
- ・平成24年1月31日午前9時18分、6号機サブドレン水について、一時保管タンクへの移送を開始しました。今後、適宜仮設タンクへの移送を実施していく予定です。

- 平成24年2月1日午前10時から午後4時まで、6号機タービン建屋内から仮設タンクへ溜まり水の移送を実施しました。  
平成24年2月2日午前10時から午後4時まで、6号機タービン建屋内から仮設タンクへ溜まり水の移送を実施しました。
- 平成24年2月2日午前8時36分、第二セシウム吸着装置において、徐々に処理流量に低下傾向が見られることから、フィルタの逆洗をするため、当該装置を停止しました。同日午前11時12分に同装置を起動し、午前11時15分、定常流量(36m<sup>3</sup>/時)に到達しました。
- 前回のお知らせ(平成24年2月1日午前10時現在)から新たに確認された凍結が原因と思われる水漏れは以下の通りです。  
○ろ過水を純水化する水処理建屋内の配管(排水ライン)の2箇所の弁(2月2日午後3時30分頃発見)  
(ろ過水※:約0.5リットル)  
※ろ過水:ダムより取水した水

以 上